

職業と教育

第二卷 第二号

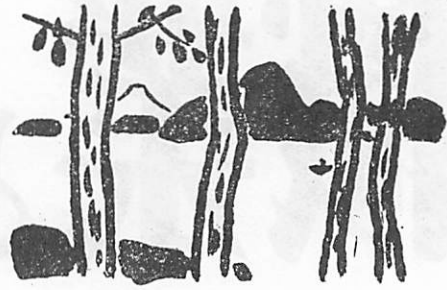
内容もくじ

- 平和と独立への産業教育について（巻頭言）……（表紙2）
- 座談会一日教組・第三回教育研究大会を省みて**……（1）
- （出席者） 和田敬久・草山貞胤・中原達子
平湯一仁・清原道寿・伊藤忠彦
池田種生
- 地域主義の混乱をいかにして脱却したか
島根県笹川郡光中学校……（10）
- 春日部中学校の産業教育……清 原 生……（9）
- 海外資料—
- イタリーにおける職業技術教育……矢野敏雄……（16）
- 苦 言 集……（20）
- 既刊パンフレット・本誌最近号主要内容……（表紙3）

1954

2

職業教育研究会



平和と独立への産業 教育について

これは生産の最も初歩的な解釈であって、今更こんなことを書いたら、馬鹿にするなどいわれるかも知れない。しかし実際には、教育の中立性が取あげられるように、案外常識的には生産を社会から切離して考える方式が、しらずしらずの間にとられているのではないだろうか。

殊に産業教育というばあい、学校という場においてはモデル方式がとられる結果、生産と現場と遊離するために、そりなりがちである。このことは、われわれの常に心しなくてはならないことである。

だが、産業教育が生産の現場から離れて、学校教育の中に存在するというところに、大きな教育的意義のあることも忘れてはならない。生産・社会・教育の関係は、切離すことのできないという立場に立つて、学校における産業教育が、生産の現場におけるそれとはちがった重大な意義を持っていることが理解されなくてはならないと思う。

さて、現実の社会を考え、生産諸関係に思いをめぐらす時、われわれはむづかしい問題に逢着する。一方には利潤追求とそれ故に予想される戦争への生産が強力に進められ、一方には平和と独立をめざしての生産が、われわれ自身のために必要であり、正しい人間形

われわれ個人の生活がすべて社会的意義を
持っているように、広い意味の教育も、そし
て産業も、社会的でないものはない。

現象形態としての学校という場における教
育は、それ自身社会と直接につながりを持っ
ていないように見えるが、実は、深い関係に
よって結ばれているのである。従って教育の
政治的中立などというものは、単に表面的な
見方にすぎない。それと同様に生産のばあい
も、社会的に関係なく物がつくられるもので
は決してないのである。生産の背後には、常
に生産諸関係（社会組織と経済組織）が存在
している。

成としてとらねばならないその矛盾である。

学校における産業教育が、後者にあることは当然としてわかっていても、現実社会における前者の圧力は、政治的に相当強い。ともすると、それに屈せられひきずられがちになることは、常に実践の場で痛感されることである。理論的に割り切れることは、いとも簡単ではあるが、産業教育の実践を推進することは、そう容易ではないのである。

だからといって、われわれはその実践を放棄してはならない。もろもろの教育営為がそうであるように、否われわれの生活自体がそうであるように、数限りない矛盾の中に、それを一步一步克服していく根気が、なくてはならないと思うのである。

歪められた政治的圧力を除くための、平和と独立への情熱と行動は、あらゆる場において、あらゆる方法で推進されねばならないであろう。その感覚を無視した産業教育がユーロピアに終ったり、却って現実社会の政治勢力に奉仕する結果になることを厳にいましめねばならないと共に、われわれの教育的実践力は、だからといって停止することはできないことを知らねばならない。それこそは、現実から浮き上った言葉の上の平和と独立への願望に終って、将来の人間形成の上に重大な意義を持つ産業教育は、歪められたままで放置される結果となるからである。

座談会

日教組・第三回教育研究 大会を省みて

☆第八分科会(平和的生産人の育成に直結する教育の具体的展開)を主題に



池田 本日は先般開かれた日教組の第三回
教研大会について、主催者側として日教組の
和田教文部長、代表として参加された草山、
中原の両氏に、他は傍聴者の立場から、色々
話して頂きたいと存じます。本研究会の性質
上私たちは主として第八分科会を傍聴したの
で、そこに重点が置かれるようになるかと存じ
ますが、もちろん、教研大会全般の問題にも
ふれて頂きたいのです。最初に和田さんから
抱負と申しますか、計画の全体についてお話
して頂きたいと思いますが……。

総費用一億八千万円

和田 今度の教研大会ですが、一月廿七日
の日でしたか、傍聴にきていられたお母さん
の方が、こういうことをいわれた。「学校の先

生方がこれほど熱心に、私たちの子供の教育
について研究していただけることを始めて知つ
た。夜も昼もなしにやっつけていられる先生方を
どうして政府はいぢめるのだらう。」というの
です。この言葉が日教組の教研大会の性格を
よく示しているので、教師が教育の問題につ
いて、どうした姿勢で取組んでいくか、取組
んだ結果、それをいかに父兄の問題にしてい
くかというところに実は教育研究大会のねら
いを持ったのです。ただ教室の中だけの教育
問題ではなく、教室の外との結びつきから研
究を進めていく態度がいかに実際に行われて
いるかというところにあるので、第一回、第二
回と進めて今度は第三回になったわけです。
殊に今回は、約六千人の全国の先生方が集っ
たのですが、今までの経験では、第一回は始

出席者

日教組教文部長 和田 敬久
正会員(神奈川県南秦野中学校) 草山 貞胤

同 (東京都砂町中学校) 中原 達子

x x x

教育評論家 平湯 一仁
国学院大学助教授 清原 道壽
横浜大学講師 伊藤 忠彦
教育評論家 池田 種生

二月六日、於フリスコ(田村町)

めてであった関係でやや形式的になった、第二回の高知大会で現場から離れたような傾向を示して、組合会議みになったので、それを反省して、今度は実践記録を集中して行く方針、これを合言葉にしたのです。それがどの程度まで効果的であつたかわかりませんが、少くともこれまでに比べて現場感覚に立った実践記録が多く示されたと思います、その意味では相当の成果を得たと思つています。何しろ、この研究大会に要した費用は一億八千万円に上つています。

一同 ホウ（驚きの声）

和田 現場での費用は入れないですよ。郡でやつて県でやつて、中央にまで持つて来た費用がそれだけかかっているのです。これだけの金をお互が出しあつて研究を進めたので、自主的な研究会としては、恐らく戦前にも戦後にもなかつた最大のものであつたと思つて。この辺でさらに腰をおちつけて本格的な研究を積みあげなくてはならぬと思つています。今度の研究大会での大きな収穫の一つは、教育の研究は教師だけではダメだということを見出したことです。やはり親と教師が一つになつて研究する態勢がとれねばならぬ。これは非常に重要なことで、近く文化部

長会議を開いて、第四回の計画について協議することにしてはいますが、大体そういう方針を確立したいと思つてはいます。なお今度の大会に参加された講師は、地方在住が百六十七名、中央が四十名、計二百七名で、教師と講師が一体となつて研究する態勢をとつたわけです。

池田 では正会員の方は後にもらつて傍聴された側の方から感想を……。

平湯 いま和田さんの言われた成果、地についたものになつて来たということは感じられませんでしたね。私は第八分科会だけしか傍聴しなかつたのですが、何といひますか、討議が集中されないので、散漫に終つたように思いました。平和的生産人といふことの受取り方にしてもウヤマヤに終つたし、地方からの問題が出されても、それを焦点にしぼり上げるといふ点が不足していたという感じ。何か第八分科会は、他の分科会でもれたものをよせ集めという風でしたね。（笑）もう一つ科学教育、技術教育といふような項目がほしかったと思つて。和田さんのいふ父兄との結びつき、教育研究の姿勢が大切で、やはりその点にほつたものがほしかつたと思つた。よい例は岐阜の関氏の研究などがそれで、あれをつつ

こんで行くと相当の成果が得られたのではなかつたか、もつと前向きなものになつたのではないかと思つたのです。ただ並列的に研究の発表がなされたにすぎず、それを掘り下げようとする人と、議事進行ばかり気にする人で混乱したようです。大体議事進行の発言が殆んどでしたね。（笑）

講師陣と司会者

清原 今のことに関連して、講師の間に連絡がなくて、例えば平和的生産人の概念規定はもうすんでいゝという発言があつて、すぐまだはつきりしていないという講師があるという風で、まとまつた態度がなかつたように思われた。地方講師団といふのは名のりをあげただけといふ人も相当いたようです。それからこれも苦言になりますが、議事の進行もまづかつた。中央執行委員の方が当られて相当勉強もして来られたと思つて、意見のとり上げ方を誤つたり、方向をまちがへたり。

池田 その点、ずい分多くの講師が並べられているが、統一された考え方にまで行つていなかつたのじゃないですか。殊に「平和的生産人の育成」といふような新しい題目については、基本的な視点を講師が共同研究して

おかないと、平湯君の言われるような掘り下げはできませんよ。その点、どうもばらばらでしたね。

和田 これは私にも責任がある。私は高知大会の時は第八分科会の議長をやったのですが、全く困った。平和的生産人とは何ぞやの議論に終始してしまつたのです。それは方向を示す主題であつて、それに関連する地方の問題をとりあげるべきだといつと、主題に関連する問題とは何だといつた調子だつたのです。それで今度はそうしたことを論じ出したからキリがないので、なるべく具体的な問題からといつ方針をとつたのです。講師の問題にしても、色々な考え方、色々な傾向の人なので、それをまとめることは困難なのです。だから広汎な問題を出しあつて研究するという方針を打ち出したわけです。それから司会者もいろいろやつて見ました。各府県の文化部長や集つて来た人から選ぶ方法、しかしみんな勉強ができないで音をあげた結果、第三回は中執委員がよく勉強して受けもてということになつたのです。(笑)

池田 よく勉強することも大切ですが、スチを外さないでまとめていく司会技術が必要ですね。

和田 その点は確に欠けていたと思ひます。議事進行の発言については、いくらいつでもダメなんです。大体県代表という意識が強いのでね。四日間一言もいわなかつたなどといつて幣れませんからね、もつと小委員会を多くしたらよいのではないかと思つています。

草山 それについてですね。現場で研究したものが、大きく反映してこそ価値があるので、あまり最初から小さい委員会にしてしまつては、よくないと思ひますが。

会員の発言のしかた

池田 草山さん、私たちがきいていて、内容もよくわからないせに、また常識程度の考え方で、反対意見を述べるというような発言が相当多かつたのじやないのですか。

草山 そういふような傾向もありました。無理に出されている人もあるので、わからないけれども発言をとりうとする態度が……。

池田 何かイデオロギーみたいなものをくつつけた解釈でやればよい。だから日教組大会では、日教組にありうよな見方を発表し、文部省の講習会では、またそれに合致す。反資本主義だの、農村の封建性といふよな言

葉を並べ立てて反対するといふ態度が感じられましたね。

清原 問題をしぼつてよい発言をしているのも見られたが、中には池田さんの言われた点もあつたですね。小学校の先生が中学校のことがわからないのは当然なのですが、それをよく知らないで、自分の感で反対しているよな発言など。

草山 そうした点もありましたが、それも自分たちには反省材料になることもありました。

和田 第八分科会が三つの小委員会にわけたのよかつたと思ひますね。実践面が相当強くでていたよに思ひました。私がこの研究会も成長したな、と感じたのは、実践的なものには魅力を感じないで、あきあきしたといふ感が、どの分科会にも見えた点です。

平湯 会員の発言の中に、保安隊や軍需工場に行く子供に意識を持たしておけばよいといった意見がありましたかね。これは個人的に解決されることじやないんで、そう簡単に割り切れないはずですがね。それにもう一つ保安隊と軍需工場では同じ軍国主義的なものでも内容がちがう。保安隊みたいな何も教育的なものない場合と、軍需工場ではちが

ますから、その点が考えられなくては。

蒲原 私もその点は痛切に感じました。資本主義一般の概念で論じられていたけれども、日本の現在おかれている、アメリカ支配下の独占資本主義の分析から見なくてはならないはずですが。また農村のばあいでも零細農を救えばよいのではないので、中農もふくめて、あるばあいは富農層だつて改革の対象にしなくてはならない。それをただ零細農だけを論じている。私はこれを零細農セクト主義と呼びたい。(笑) こんな面を強く感じましたね。

平湯 そのくせ農村の実態調査は非常にしているのですがね。その調査が十分生かされていないという点に問題があると思う。

実態調査と対策

和田 それがですね。研究の進め方が一つの型にはまっているのじやないかと思うのですよ。何々対策というのと、まづ実態調査、それから対策というようにしなくしはならんよに思うのですね。実態を調査して教育の実践をより上げることが示せば、別に必しも対策はなくてもよいのですが、対策という言葉があるために、それに合そうとすることに無理

があるのでですね。

池田 一つのテーマがあると、何でもそれに合わせて、あれもこれもと羅列するのではなく、特色のある実践なり研究なりを発表するようにしたらよいと思う。そうでなかったら山形も千葉も同じようなものしかでてきませんよ。やはり特色を持った深い研究をとりあげる方がよいのじやないですか。

和田 どうしても先生は教壇の窓を通して見るといふ点が強いです。だから調査をしても、さて対策はとなると、机上で作られるようになるのですよ。だから労働組合の人たちが、親たちがどんな立場で、どんな教育を教師に要求しているか、それをとりあげて実践に移した時に、ほんとうの対策が生れると思うのです。

平湯 それは、やっぱり労働者や農民、父兄を民主的に啓蒙するんだという考え方からきているのですね。さきに、和田さんのいわれた姿勢ができていないということですね。

草山 農村の人たちと話していると私どもより意識の進んだ人が多い。それに農村の封建性についても、もう一度見なおす必要がある。新しい封建性ができつつあるということですね。

池田 さつき和田さんのいわれた父兄の要求ということですが、直線的に一部の熱心な父兄の要求をとり入れてよいとはいえないですね。たとえば、PTAの役員とか、大多数でない限られた父兄が、自分の子供を進学させたいために、東京都の多くの中学校のように、職業・家庭科などは片隅によせた、進学にばかり浮身をやつすのでは、正しい取上げ方といえない。この問題が案外論じられなかったようです。

天皇制の論義

伊藤 今までに出なかったことで、天皇制の問題が出かかって消えてしまった点、もつと世界的視野に立つべきではないかというようにな点がかけていたように思うのですが……

池田 というのは？ もう少しくわしく。

伊藤 天皇制についての意見が出てきたのを講師がおさえたようなことがあつた。海後勝雄さんでしたか。

清原 その点、講師も司会者も機敏にという風があるらしいと、大分会員からきかされましたがね。

草山 何かそうした発言をしようとすると切られた感じがしました。

和田 それは司会と講師の思いやりがあつたと思う。この前の教研大会では、天皇制の問題を論じだしたら果しがなかつた。それで今度はそうした大きな問題よりも、具体的な下積みの問題から発展させて、たとえ原則的な結論は出なくてもよい、それで行くという配慮があつたと思います。

平湯 天皇制の問題は割によい形で出たのですよ。最初の晩の懇談会をやつたでしょう。その会場の教室に天皇一家の写真がはつてあつた。それを会員の一人が見つけて、こういうのをどう扱うかという風に話がでたのです。だからそれを発展させれば、別に天井に上つてしまふようなことでなく、非常に有益だつたと思う。どうも、よい問題が出かかつたと思うと、それが消えてしまふという風でしたね。

和田 講師と司会者の思いやりが強すぎたかな。

平湯 地方講師の中に、ずい分ウルトラの人がいたな。何をいつているのか、きいていてもわからないような、大分県だつたかな。一ぱいのもんできてやつているのかと思つた。

清原 ああ、その人なら心理学やつている人ですよ。心理学界で資本論読んでいるのは

オレだけだと威張つていふというから。

池田 地方講師には大分あふないのがいたな。相当講師陣の貧弱さを感じられた。

和田 いや教研大会を通じて、地方大学の落差を痛切に感じましたね。全くひどいですね。

平湯 講師の再教育の必要か。(笑)

池田 講師団の研究集会を開いたらどうです。(笑)

清原 ある県で教研大会の準備に、大学から講師をよんで、平和的生産人の育成についでたずねたら、音楽でもやつたらよいでしょう、といったそりですよ。(笑)

和田 せめて一定のレベルに達していくれるとよいのですが、あれじやよい教師は生れてきませんよ。連絡委員会ではシンラツな意見ができましたよ。それは学校に閉じこもつていふような講師ではダメだ。大衆の問題ととり組む講師でなくては役に立たないというのです。

池田 これは伊藤さんなんかどうですか。あなたの大学においては。

伊藤 学生が交つてきていますね。学生が天皇というのを、教師は天皇陛下といわなくてはいけないと教えるのです。それ位ですか

らひどいでしよろね。

和田 学校の中だけの講師は、自主的な研究をしていない教師の発言がなつていないように、教研大会でも殆んど発言もできないければ指導性ありませんよ。

平湯 私の知つていふ講師の中でも、自分が行きつまつたりしたら、實際家にきくといふような心がけの人もいます。そうした人はそこで勇気づけられ、眞剣に研究していられる。そうした人は尊敬させられます。

婦人教師の意見

池田 そこで少し話をかえて、婦人教師のばあいですが、教研大会ではその数も少く、また男子に発言をとられ勝ちという風でしたが、二三の家庭科の研究発表などもきいたのですが、どうも感覚が古いように感じられたのですが、中原さんは、正会員として参加されてどうでしたか。

中原 私は婦教研の方だけしか行かなかつたのですが、今まででたような感想と同じでした。テーマからはずれていてもおかまいなしにしゃべる人もいました。第一分科会では職場と家庭の問題、それが一番関心を持たれていたようです。しかし個人的な問題に結び

つけるという風でした。

池田 家庭科の問題はどうでしたか。

中原 あまり出なかつたですね。

池田 私のきいた中学校の家庭科研究の発表、秋田と静岡でしたか、人から意見を述べられたら、それはわかっています、報告書にそれも入っていますといつた調子でしたね。

もっと大らかに人の意見をきいて、自分の足らない処を反省していくという点が、女の方にはかけているのじゃないかと思われましたが。

平湯 殊に静岡がそうでしたね。

池田 しかもその発表が家庭の民主化だの科学化だのといつて、講習会で指導をうけたというような、昔の家事裁縫研究からそうぬけ出してないような内容なんです。社会の家庭のつながりという点がもっとおし出されるべきですが、あの調子では、こうした意見も、わかっていますと片づけられてしまいそうですね。

和田 婦教研は今年きりでやめます。そして男女同教で教研大会に参加するようにしたい。女の人はおくられているならそれでよい。男子と一しよに職業科なり、家庭科なりを研究するようにしたい。婦教研はどうも男子を

対象として論ずることが多く、教研大会には婦人が少いという結果はよくないですね。

中原 そういう要求は大分下から出たんですよ。女だけの特殊なことはこちらでやつて外のことは一しよの方がよいという意見も出たのです。しかし婦教研と教研大会で、発言がそんなにちがつてはダメですね。

和田 ダメですよ。(笑) 全体会議をやつた時でしたが、和歌山の人から、私は家庭的に少しも悩みもなく幸福で、月給はみんな使えるし、みなさんのばあいと少しちがうという意見が出た。また熊本からは、炭鉱のストライキの時子供たちは学校を休んだが、教育は客観的に扱わねばならぬと考えて、私は中立的立場をとりました、というのです。非常によい問題がふくんでいるのだが、びたり止つてしまふ。少しも発展しない。その意味でも男子と一しよになるべきだと思ふ。

中原 私は発表責任者というのですが、個人的な意見は発表できないし、困つたPTAの会長さんのいる学校や、保安隊へ入れるようにすすめる村長さんなどについて、色々質問したいと思ふのですが、それができないので、今おつしやたように少しも発展しないのです。

反対か賛成かてきめる

和田 私は職業教育について伺いたいのですね。職業教育にしても、保健体育、理科それぞれ々に研究されているが横の関連のないことですね。これは新潟県のある教師ですが、理科と職業科を関連させて、村の年中行事から、封建的慣習、生活のあり方、作物のつくり方をすつかり調査して、理科のカリキュラムなどとらわれないで、卒業した生徒がどういふ生活の中に入っていくかということから進めているのです。たとえは、そこでは木灰だけを肥料に使っている、リン酸やアンモニアなどは買えない、その問題を理科教育で取上げている。彼がいろいろには、社会改革であるとか、制度の改革とかは必要だが教育ではそれだけでない大切な問題もある。それを忘れてはならないというのですが、職業教育と、理科教育と、社会教育と、どう有機的に結びついて、生活の中にくいこんで行くかは、これからの問題となるのではないかと思ふですね。

池田 その通りですね。今までの教科中心主義のセクト主義が捨てられねばならない。それが教育研究のすなおなあり方を邪魔して

いるのです。いまいわれたような問題が盛り上つてくるとよいのですが。私がさきにいっただ特殊な実践研究を通じていうのが、そうしたものをさしているのです。非常によい実践ですね。

和田 それから産業開発青年隊、青年学級などにしても、これには日教組は反対だから反対という態度ですね。これは大きな問題ですよ。産業開発青年隊の中に行くと、彼等は悩みを持つている。その中で教師がどういう姿勢をとるか、これが実は大切なのです。

池田 それは教研大会でも、カンセラーは反対、産振法は反対、何でも文部省からいつてくるものは反対だ、という形でできました。しかもカンセラーの内容はよくわかっている。いって常識論で反対しているんですね。それをどうして平和的生産人の教育に役立つよう、実践的に改革するかということ。そんなことはできないときめてしまふのではなく、自分たちの持つ実践力を捨てないで、できるだけ効果的な方法が研究されるべきだと思つてます。既成概念や一般論で片づけてはならないと思う。そんなことをいつている連中が、それが上からきた場合、どうにもならないで頭を下げてしまふ。文部省で職業指導主任制を

作ろうとしている。それをどううけるかという態度でなく、口先だけの反対論では全く無力ですよ。

平湯 反対と賛成というように、あっさり片づけているんですね。

和田 そうなんだ。地教委の問題にしても和田さん反対でしようというんだな。うんそうだとすると、これは反対しなくてはとくる。それでいて現場に問題が起ると一寸地教委に相談してこようとなる。(笑)

清原 現在の社会が間違っているからいつて、何も否定したのでは、教育は成立ちませんからね。現実社会の中で、どこをねらいつていくかということが大切なので、それに対して何等準備態勢もなく、実践が考えられない点、全く教育否定になると思いますね。

草山 文部省の学習指導要領のことも出ましたが、よく研究してみないで反対では話しにならないですね。そのどこが間違っているか、それを実践的にわれわれの力でどう改革すべきかということが大切なので、私も自分の実践を発表したのですが、どうもあまり論議がそんな風に発展しなかつたと思います。
和田 私も戦時中青年教育にとり組んだが間違っていたかも知れんが、あの当時なりに

眞剣にやったと思うのですがね、どうも教師が教壇の上だけで教育しているように思われる。この大事な日本の危機にのぞんで。

池田 上から強力なものがくるまでわからないのか、怠けているのか、捨てているのか見通しとか準備態勢を考えていないから、強い権力でおさえられると、わけもなく屈してしまふ。現在の職業教育にしても、そうですね。東京など甚しいのですが、少数の人たちが熱心に考えたり研究したりしている。その態度を吸収するために、自分を反省するような教研大会になつたらよいと思つてますが、その点さびしかつたですね。

和田 今度の教研大会をやつた結果、これからの課題は何か、そういうものが職業教育の上にも出なかつたようですね。職業教育を通して、または家庭科教育を通して、親と教師がどう結ばねばならないか、そうした点が出されたら、教研大会の性格もちがつてくると思う。

政治活動禁止の問題

池田 では最後に例の教師の政治的中立性の問題、教研大会でも決議されたのですが、あれについても話しあつて頂きたいと思いま

すが。

和田 それについて、この機会に本誌の読者の方に伝えて頂きたいことは、教研大会は一つの決議をしたのではない。この法律案と教師の生活、教室中での活動においてどう影響するか、文部省から憲法読本がでているがそれをどう取扱いのか、炭やきをする子供が炭を背りて肩がめいってしまつた、それについて世の中の仕組みを批判したばあい、それをどう指導するのか、等々の点について話しあつたので、非常に効果的だつたと思う。實際あの法案が実施されたら、新中国との貿易について口をすべらしただけでも懲役十年、罰金十万円以下となる。こうなれば一体教育現場においてどうなるか。この間大達文相と会つた時こういふ話が出た。ある県でシラムのいる学校といない学校とが出たことに對して、衛生教育の立場から、これを何とかして県当局に訴えて費用をだしてもらおうと校長に申出たら、それは政治活動になるから村長や教委にまかしておくべきだといつた。所が村長はそれをきいて、それは村の不名誉である。大いに運動しようといふ陳情活動をした。これはどうなるかといつたら、大達文相は何も言えなかつた。こんな問題はいくら

でもある。この法案に対しては私たちは実践を通してたかたかといかねばならない、その姿勢を打ち立てることが大切で、決して参つてしまつてはならないと考えているのです。**畠山** これについては、父兄との連りが絶対に必要ですね。大衆と強い連けいをもつてこれでは教育ができないということを訴えていくことですね。

平湯 それについて、私の方で教務主任がプリントで子供たちの夕食の話から、平和の問題に発展したが、しかしこんなこともいえないくなる時代がくるかも知れない、つまり政治活動禁止法が出たらそうなるかと父兄に訴えてきたのを、家内が近所のお母さんと話したら、それでは先生も困られるでしょうと話したといふのです。やはりそうした實際教育の面から訴えると、母親たちにもひびくので尻ごみする必要はないと思ひますがね。

池田 この法案は、単に教員だけの問題でなく、私たちの研究会にも直接影響する。国民への言論の自由を圧迫し、人權をふみにじるもので、今までにない、タチの悪いファシズム的なものなのです。これを大衆に訴え共に立ち上ること、教育の実践、生活のあらゆる場面で、それを無力化することが必要だ

と思ひますね。やり方はいくらでもありませんよ。

和田 この間もあるお母さんがいわれたが都教組のビラをくくばるのに、これは私にはよくわからないが、組合から来たから配りますといつて持つてきたといふのだな。それで父兄はどんな印象を持ったかといふと、無責任だナと感じているのだな。またラジオの街頭録音でね、マイクを向けられたある女の方が「私は教員ですからしゃべられません」といふた。こうした態度から抜け切つて積極的にならなければ、益々圧迫はきつくなる。

中原 私の学校でも、そんな例がたくさんあります。

池田 では、長時間ありがとうございました。この辺で終りたいと存じます。



埼玉県春日部中学校

の産業教育を觀る

清 原 生

去る十一月二十七日、埼玉県中学校産業教育振興大会に、文部省河上事務官とともに臨み、ひたしく春日部中学校の産業教育の実際に接する機会に恵まれた。産業教育に重要な地位をしめる職業・家庭科を中心に、その実状を簡単に紹介することにしよう。

春日部中学校は東京の浅草から東武線で約一時間行つた春日部町（埼玉県南埼玉郡）の町はずれにある学校である。この学校は埼玉県下十四校の産業教育指定のうち、施設・設備が各技術領域にわたつて最も充実している学校である。これだけの施設・設備をもつ学校は、全国的にみても有数なものといえよう。

昭和二十四年九月のキティ台風によつて校舍倒壊のあとをうけ、校舍建築の大事業とともに、この充実した施設・設備をもつにいたるには、創立以来の日向校長の確固たる教育的信念と、地域社会の人たちの協力なしには絶対に不可能なことである。われわれはその

なみなみならぬ努力に深い敬意を表せざるをえない。

○ 当日の職・家科の公開授業は、九時から九時五〇分まで各実習室で行われた。

商業（三年、模擬実践―当座取引の約定）

木工（三年、木工機械による講堂用長椅子

の製作）

金工（三年、金工機械による加工）

農産加工（二年、精麦）

飼育（二年、ヒナの世話）

調理（三年、共同炊事―ポテトサラダ・ピ

スケッチ）

被服（三年、ミシンによる子ども服の製作）

木工室・金工室・加工室で機械とつくんで

いる子どもたちの眞摯な姿、日当りのよい畜舎で家畜の世話に余念のない子どもたち、

そこに労働と教育の結合による眞の人間教育がおこなわれている。全中学校の職・家科教育の実践がこの学校の域にまで達したとき、

日本の中学校教育は、世界の教育の主流のレベルによりやく到達したといえるだろう。

○ しかしこの学校の職・家科の教育計画にも問題がないわけではない。それは現行の学習

指導要領に忠実であるかぎり、当然おこつてくる問題点である。当校の今年度の研究題目が「中学校における教育計画及び教科課程の研究」であり、職・家科にたいする考え方として、さきにごく大産業教育中央審議会の建議案を理念としてとりいれられているので、

現行学習指導要領の難点を克服しようとする努力がなされているとは考えられるが、今までに

でている当校の研究物から判断するとかかなり学習指導要領のわざわいをうけていると思われ

る。たゆまざる諸先生方の努力によつて、すでに現在においては、つぎにのべる問題点を解決されているかもしれないが、二・三

づいたところを記することにしよう。

1、「拡散・集中の原理」によつて、二年から生徒の希望によつて、農・商・木工・金工・

家庭にわけているため、審議会案でいうような産業についての基本的な各分野における代表的なものを、すべての学習していないこと。

2、必修としての職・家科の性格が明確におさえられていないために、職業準備的偏向や職業指導的偏向が混在していること。

3、社会経済的理解即職業情報となつて

こと。

われらの歩み

地域主義の混乱から

いかにして脱却したか

島根県簸川郡光中学校

(平田町・北浜村組合立)

一、中学校教育の目的の偏向

日本の民主化のために、大きい抱負と期待をもって敗戦のどん底の中から発足した中学校教育が、その目的をはずれて方向を誤まっているように思われる。この原因は、教育の当事者が中学校は国民の一般教養をたかめることを目的とするものであると考えたことと、近来いわゆる新教育に対する不信や、生徒の卒業後の進学、就職準備などについてなされる、社会の悪条件からおこるいろいろな要求や批判が学校にとりいれられて、これと迎合するかのような教育が行われたことである。

I 中学校の教育を本来の目的に向ってたてなおさなければならぬ。

義務教育として国民のための教育を行う中学校教育の目的は現在日本国民が直面している課題を解決する力をもった人間に子どもを教育することである。今の日本の課題は平和な民主国家をつくることである。独立したといってもそれは眞の独立で

はない。眞の独立国となるためには、まず日本が経済的に自立しなければならぬ。このことが現在の日本の民族的、歴史的課題である。この課題を解決するためには、国民生活、経済生活の改善向上をはかることが必要である。

中学校においては、すべての教科がこの目的のために責任をもつものであるが、もっとも直接的な役割をもっているのは職業・家庭科の教育であるとして、これを改善向上して中学校教育の中核としなければならないと決意して、あたらしい発足をはじめたのは講和條約発効の頃のことであった。

II 中学校の職業家庭科の現状

本校はじめこの地域(簸川、出雲)の中学校では、職業・家庭科の教育はいろいろな目的と方法で行われていた。これはこの科の教育についての方針が、中学校発足以来しばしば変わったことが大きな原因となっている。

国の方針は、中学校発足以前の職業科と、家事裁縫がそのまま延長されて、発足当時には職業科が(農業、工業、商業、水産、家庭)に分科され、それと職業指導が行われていたが、二十四年五月には、職業指導を中心とした職業および家庭科に変わり、間もなく十二月には、実生活中心主義の職業、家庭科として統合された。

なおこの教育は地域の要求によって特色をもたなければならぬといふことが、いつも強調されていたところから中学校教育では特別な教科であるとしたことである。

またこの教科がかえりみられなかつた理由として、職業・家庭科と同時に生れた社会科こそ新教育の生命であるとして一般

の関心が社会科に集中されたことや、さらに近來は生徒の卒業後の進学や就学準備のために、職業・家庭科は厄介ものあつたようになっているところもある。

二、職業家庭科教育の改善

I コース別の課程を設け、選択科目を改めた。

(1) コース別課程

職業・家庭科教育改善は、まず二つの異った教育課程を設けることからはじめた。このことは学習指導要領が、この教育は地域の要求によって特色をもたなければならぬことを強調していることによつたのである。この学校のもつ地域がH町とK村であり、その地域が農村、山(鉢)村および漁村とはつきりした特色があらわれており、職業の分布状況も、農業二、水産業二、林業および鉢山労働者が一という割合を示していることから、職業・家庭科の教育にはこの地域の特色をとりいれなければならないものとして、農山村コースと農漁村コースと二つの教育課程を設けることにした。学年を縦に割つて二つのコース別をつくり、さらにそれを横に分けて男女別にした。

(2) 選択科目を強化拡充して、そのとりあつかひの改善をはかつた。

地域の要求をいれるためにも特色づけるには選択科の制度を充實強化しなければならないとして、二、三年の男子には農業と水産のうち一を、女子は和裁と洋裁を半年ずつ交互に選択させることにしたが、一年では英語を学校選択として職業・家庭科を除外した。

II コース別課程や選択科目によってあらわれた障害

(1) 指導内容についてのゆきづまり

農山村コースの方は従来の職業科(農業)の延長として行われるから、仕事も農業を中心にして、学校の農場(畑四五歩)でやつてゆけるのであつたが、問題は農漁村コースにあつたこのコースのねらいは水産の仕事が中心であつたが、これが予想以上に困難なものであつた。中学校の子どもの学習する水産の仕事は何かとさがしてもなかなかみつからない。魚つりとか舟こぎとかいうものにしても教育と遊びの区別に迷わなければならなくなる。その上なお困難なことは仕事の場が校外、しかも海に出なければならぬことである。

学校の日課の制約された時間で、農山村コースと平行してゆくことは困難なところから、必然的に農漁村コースは教科書中心の学習に終り、指導要領の仕事中心というこの教育の本質的な性格に反する結果になつた。

(2) 学校の教育運営をますます混乱させた

中学校の教育課程が間口だけ広く図示的に行われていることから学校生活が安定性をもたないところへ、コース別の課程を設けたことは学校の運営を一そう混乱におとし入れた。教室はますます不足するし設備もともなわぬ。教員のける負担も増加する。

(3) 生徒の側からみた問題

この計画を實施した理由は地域の要求とともに、子どもの事情、個人差を強調したことからであつたが、じつさいにあられた結果は子どもがコースを選択する條件は、子どもの

家の職業によって決定され、したがってそれははっきりした校下の地域によってわかれている。漁業が主体であるK村と農業その他の混成であるH町（元のWとNの二村がH町に合併している）に男子も女子も二つにわかれて、一カ学年に四つのグループがつけられた。この結果生徒間の地域的な対立感情を助成する傾向があらわれてきた。これは組合立の学校ではとくに重大な問題である。

子どもの個人の問題にしても、進路を決定することはなかなか困難なことであるにもかかわらず、学校ではこれをおかたんに割切って二者択一のことをおしつけていた。

生徒の進路希望状況は農林、水産業の第一次産業が五分の二、残りが第二、三次産業と進学である。これらの子どもに對して農業や水産を目的とした職業教育を行うことは、子どもの個人差を重視することにはならない。

また選択科目に英語と職業家庭があることが中学校教育の上に大きな障害となっている。英語を択するものは進学を希望する少数の（條件のよい）生徒であり、進学の目的のために英語をとる。進学の望みのない（條件の悪い）もの、しかも多数の子どもはやむを得ず、職業家庭を選択することになり、学校では少数の進学希望の子どもに主力が注がれがちになる。

教育の機会均等からいっても義務教育ではとくに条件のめぐまれないものに対してこそ教育の主力が注がなければならない。このようなことが平和な社会をつくることを大きくさまたげている。選択と必修の混乱は、仕事の重複から子

三、協同研究の推進

I 校内の協同研究

もの労力や父兄の教材費の負担を倍加させる結果になり、子どもの学校生活における安定感をさまたげることになった。

この地域の学校では、毎週水曜日の教員の出張を要するような行事をもたないことを関係の各種団体とも協定して、この日はもつばら校内の研究活動にあてることになっている。

職業家庭科教育を中核とする中学校教育の推進のため毎週一日、二、三時間ずつではあったが研究協議会をもつことにした。まず職業家庭科の性格や目標について各人の現在の考えていることを話しあうことから出発したが、全く十人十色な考え方や態度をもっているのだから回教をかけていった。決して結論をだすことをあせらないで、全員の腹に入るまでまったからひじょうにたどたどしいあゆみではあった。

性格や目標について考えているとつぎのようなことについても問題が出てきた一般教養とは何か。職業家庭科は果して職業教育であるか。他教科との関連についての問題など。

このような考え方から職業家庭科の教育は地域社会の事情により特色をもたなければならぬものとして前述のように異った二つの課程を設け、なお選択科目拡充したものであったが、われわれの研究や計画の不備から間もなく意外な障害につきあつた。

この対策に苦しんだ結果として、従来説めば読むほどわけがわからなくなる学習指導要領を、不得要領のまま金科玉條的に示された性格の「地域の要求により特色をもつ」ということを

育信していた結果からおこった障害であることによりやくく育信することができた。学習指導要領に対する疑惑、不信をもつということは校内でも一部のものはかなり以前から考えられていたようであるが、学校全体としては短期間ながらあらわれた現実の障害につきあたってもなお解決のできない問題であった。

Ⅱ 協同研究の発展——平田部カリキュラム委員会の問題となる

当平田地域には教育振興会という組織があつて、地域の実体にもとづく教育計画をたてることを当面の事業として、社会調査、児童調査を行い、それとともに小、中学校全教科のカリキュラム作製の協同事業をつづけてがいているが、二十七年度ははじめにおいて、この作業を継続するかあるいは中止するかについて再検討することになったが、結局使用できるものをつくるというところで事業を継続することになった。

職業家庭科については当然問題がでた。この教科の特色からみて、協同作製してもむだであるとの意見が多数ある。このときわれわれの実践による事例をもとにして、地域性の強調主義についての討議が中心になって行われたが、その結果は、県教育研究所の助言が有効に行われたため、あらたな「地域的主義」の視點に立つて、すなわち地域社会の要求ということとを、一村や平田地域のごとき狭い意味を強調するということを考へやめて中学校の職業家庭科が国民の義務教育であることを考へカリキュラムを作製すべきであるという結論に到達することができた。このことは同時にわれわれの校内研究によつて起つた問題を解明することになった。

そこで平田部では前年度に約三分の一つくつていたカリキュ

ラムを放棄して、われわれの学校の研究事例を基礎にしてはじめからつくりなおすことになり、部内中学校の主として職業家庭科担任者の協力によりこの仕事を継続している。

Ⅲ 簸川、出雲地域の協同研究へのひろがり

簸川と出雲の中学校教育研究会では、従来は主として教科書についての協同研究を行つていたが、前述のように各校の事情がそれぞれ異つてゐるから、したがつて教科書も各種のものが使われている。われわれはこれを統一することが直接の目的ではなく、職業家庭科教育の本質から検討した。この場合、われわれの学校や平田地域の研究の結果をとり入れたことは当然である。その結果二十八年度から郡市では、ほとんど各校同一種類の教科書を使用することができた。

この教科書の研究を行つたことから協同研究が進み、本年三月にはわれわれの学校で新しい計画をめざした研究協議会をもつことができ、なおこれを強化して組織化した研究体制をとつてのえる計画をすすめてゐる。

Ⅳ、職業家庭科の性格や目標をたてかえた

I 地域強調主義の排除

職業家庭科の教育は地域社会の要求により特色をもたなければならぬということとを育信し、これを直線的に学校教育にとりいれようとして、まず二つのコースを設け、さらに選択科目を四つに分けることからはじめたが、間もなくいろいろの障害につきあたつた。この障害を除去するために、校内の協同研究で未解決の問題が平田地域の協同研究となり、さらに出雲、簸川地域の問題として発展していき、その結果として学習指導要

領が示している「地域社会の必要と学校や生徒の事情によって特色をもつものである」ことを改めなければならないことが解明されるに至った。

農村地域で行われている仕事は農業が中心であるから、学校の教育内容として農業関係のしごとや生活課題だけをとりあげてこれを直線的に学校にとりいれ、教育を狭い地域の中にとじこめようとしていた。郷土教育主義の教育を行っていた。しかもそのしごとは、とくに立ちおくれたこの地域の農村社会で行われているもので、前近代的な、非科学的な技術が多い。これを学校の教育にとりいれることは、教育が社会に従属することになり、教育が社会の更新性をもつということに反する。

また子どもにしても、そういうしごとは、幼い時から家庭で体験させられており、そのしごとに対する父兄の労苦をよく知っている。彼らは学校にでてまでも同じようなしごとをくりかえす必要はない。教師の命令であるから働くということになりかえって労働をいとう傾向を助長し、教育のしごとと逆効果をもたらず結果となる。教育が社会の更新性をもっているからには、学校教育と地域社会の要求との関連についての従来の考え方をかえなければならぬことになった。

子どもを地域社会の非科学的、不合理的な社会生産体制に適應させるように商品化する教育を行うのではなく、地域社会の生産技術を改善向上させるために役立つ教育を行うことがねらいでなければならぬ。そしてこのねらいは単にとじこめられた狭い地域の要求にだけとどまるものではなく、視界を大きくひろげて、日本全体の産業教育の観点に立った中学校で行う教育ということをとらえ、それとの関連において地域の産業と生活をどう改善向上させるかということである。いままではまず

身ぢかなしごとをせまい地域の中から求めてこれを直線的に学校教育にとりいれていたことは逆に、はじめにまず日本の現在および将来において重要な位置を占めている産業をとらえ、その産業の振興開発をはかるため必要な教育を学校にとりいれるのであるが、それをただちに学校にもちこまないで、そのときをはじめ地域や学校、生徒実体にてらして、それとの関連において学校の教育計画をつくることにした。

Ⅰ 職業家庭科で行う仕事の技術の問題

(1) 実生活に役立つしごとについての疑問

職業家庭科のうけもつしごとが単に地域の要求によって決定されるものではなく、それは日本の課題解決に役立つものでなければならぬのもであるとすると、当然学習指導要領の示す性格の第一歩にある「実生活に役立つ仕事」という中核的な性格について疑いをもたなければならぬことになった。いままでは現実の諸問題を解決する仕事学習といって、身のまわりの卑近な日常生活のしごとをあれこれと思いつきによってとりあげ、しかもそれをいもづる式にあらぬ方向に発展させていた。そして「実生活に役立つ仕事」という視点にたつかぎりは、たとえその仕事が社会的生産技術としての意味がなくても問題に仕なかつた。生活技術の学習が目的であるから、そのしごとがどうにかまがりなりにでもできさえすればよいとして、その中間の課程などは問題に仕なかつたために、基本的な作業能力を養うことが無視されてきた。

(2) 生活技術の教育から生産の基礎的技術中心の教育への移行
家庭生活が社会や産業生活の縮図であるから家庭生活のしごとと身ぢかな生活技術を窓にして、産業技術へ発展させるものであるとしていたが、この地域のように日本でもとくに近代

化に立ちおくりしている社会の家庭生活と工場生産体系とに大きな断層がある現状では、日常の生活技術を基礎として、産業技術の習得を期待することは困難であり、なまはんかないかげんな技術を習得していることが、かえって科学的、合理的技術を習得する上に障害になることが多い。このことが産業社会から学校教育に立たないと非難をうけ、教育に對して不信の念をいだかせている一つの原因ともなっている。学校で学習する技術は単なる生活技術ではなく、日本の産業の開發、国民の経済生活の改善向上のために役立つ生産手段として基礎的技術でなければならぬとした。

(3) 職業家庭科を職業と家庭に分離した

職業家庭科の仕事がわが国の経済自立をめざす目的で、それに直結する生産基礎的技術の学習でなければならぬことを、実践の結果によつて決定することができた。このことによつて従来懸案であつた職業と家庭の混乱を解決することになった。

職業・家庭科というわけのわからない名称にこの科の教育は大きく混乱していた。これを一つの教科に統合した理由についてはいろいろと説明されているが、根本的にはやはり、「実生活に役立つ仕事中心」という考え方が中心になっていた。しかし実生活に役立つ仕事学習はひとり職業家庭科のみに限らないし、生活技術と生産技術の関係については既に前述のような大きな断層があることを究明した。したがつて職業科のねらいと家庭科のねらいにはおのずからはっきりした性格のちがいがあつたものとした。

すなわち職業コースは「職業生活における基礎的技術を習得するとともに、それを通じて国民生活、経済生活について

の一般的理解を養う」ものとし、家庭コースは「家庭生活における基本的な活動の経験とともに、それを通じて国民生活に對する一般的理解を養う」ものと性格や目標をはっきり區別して教育計画をたてることにした。ただしこのことは、男子には家庭学習が必要でなく、女子は昔の家事と裁縫に逆行するというのではない。男子にも家庭を、女子にはさらに積極的に職業学習をさせることの必要にもとづくものであるが、それにはそれぞれ傾斜をもたせることにした。また同一の学習内容のばあいでも男子によつてそのとりあつかい方を異にした。たとえば栄養については男子にも学習させるが、男子には飯のたき方まで学習させる必要はないことにした。男子の家庭、女子の職業ということになる。

(同校教諭 山岡千代吉記)

本稿は、光中学校が昨年十月發表された「本校の産業教育」第一集の中の前半を、諒解を得て掲載するのである。われわれは、これを読んで、光中学校の眞剣な職業・家庭科への歩みに敬意を表すると共に今更のように文部省試案と称する「学習指導要領」の害悪を痛感せずにはいられないのである。いかに実践を通さない机上の立案であるとはいへ、この稿は、実践によつて理窟でなく見事に批判しつくしている。

職業・家庭科の三性格としてあげた「実生活に役立つ」仕事といふ「地域の特色をもつ」ということが、どんなに現場を混乱させ、袋小路においこんだか。いまだにそれを固執しているという一部の人は、頭を冷して、この実践家の声をきくべきであらう。これは本氣になつてこの教科にとりくんでいる人にしてはじめて発見し得ることである。ここにもわれわれは実践の尊さを知るのである。見せかけの、古い常識的の判断によつて、いかにもつともらしい性格や目標を並べたてても、実践の前には太陽に照らされた雪の如くいつかその根底の薄弱さをバクロする。もしいまだに、学習指導要領をおつかぶせたり、鵜のみにしようとする努力をしている人があつたらば、本文を味読されるよう切望する。(編集部)

イタリアにおける職業技術教育

—その教育機関と教員の養成機関—

矢野敏雄

している。

イタリアの義務教育は八年制をとつていますが、その六年目から三カ年の技術教育関係のプログラムを編成して、他の一般教科の教育と平行して「職業前教育」を行っている。それは男女の区別をとわず、特定の職業に関係なく、基礎的技術教育を行うことになっている。これはちよつど日本の中学校の職業・家庭科にあたるといえよう。

義務教育を終了した技術者志望の者、すなわち、高次の教育段階に進む者のために、イタリアでは、技術学校(日本の職業高校)、職業技術訓練所、専門技術者養成学校、女子職業学校、その他各種の技術職業コースが設置されており、そこで実社会で実際に役立つところの技術訓練による有効な教育を行おうと

技術学校は被教育者が既に「職業前教育」の技術教育の段階を終了してきているので、それに基づいて、主要な産業部門の技術に適用し得るところの訓練を二年間で施そうとする学校である。

だが、この技術学校は、やがては職業技術訓練所にとつて代られる運命にある。その理由は、義務教育を終了した少年達を入れることには職業技術訓練所も技術学校と別に変りはないのだが、この訓練所の指導科目が多様になつていて、少年達の希望して準備しようとしている仕事に応じているばかりでなく、訓練所の教育自体が現実の社会における労働と生産によく適応する実地的な職業技術訓練を行っている合理的な教育機関だからで

ある。

専門技術者養成学校というのは、専門技術者及び中堅幹部技術者養成を目的として居り義務教育終了の技術者志望の者にとっては最高の養成機関であり、従つて期間は長く、五年間である。

女子のための技術職業教育機関としては、女子職業学校があり、義務教育終了者に三年間の訓練を施す。これは女子に女性の仕事(家庭的なもの)及び職業に関する実地的な面の訓練を施そうとするものである。

二

イタリアにおける職業教員はどのようにして養成されているか、現職教員の教育はどうであるか、ここではそれらの点についてのみをみる。

教員養成における場も現職教員における場合も、そのねらいとするところは、いままでもなく、教員の量的確保と質的向上との二つが、相俟つて充足せられるところにある。

現在のイタリアの職業教育の教師を分類すると、三つの型になる。

〔A〕 大学で技術教育を受けた者で、技術者養成の専門学校の教師

〔B〕 大学で技術教育を受けた者で、技術

学校(職業高校)・職業技術訓練所・義務教育における職業コースの教員

(C) 大学以外の学校で技術教育を受けた教師

イタリーでは、大学やその他の学校で教員養成教育を受けた教員志願者にたいしては教員試験が行われている。

この試験は、一九二六年以来実施されている。イタリーにおける教員選考試験は、有能な教員志願者に対し、教員免許状と教職ポストを同時に与えようとするのが目的である。この免許状は全公立学校の教員は勿論のこと、公立学校の講師、地方学校教員、私立学校教員等いずれの場合でも、教員となる者には、絶対に必要なものである。

教職ポストというのは、選考試験の行われる事前に、その目録が発表される。たとえばごく最近の目録で、一九五三年六月に発表されたものを見ると、職業教育関係の教職ポスト数は二八六九である。この教職ポストによりどのように教員補充がなされて行くかという、試験委員が試験の結果、及び本人の履歴研究発表物、特別課程の履修等を審査して等級別リストを作成し、志願者の採用順序を定めた後、教職ポスト目録により採用決定を

して行くのである。

このような教員採用方式に従って、全公立学校は教員を補充している。

だが、この教員選考試験内容及び養成指導の問題に、欠陥のあることが指摘されている。その一は、試験が志願者の知的学力面に重点がおかれていること、教員としての資格、條件、能力の面よりも、大学その他の学校で得た知識面に余り集中し偏向していることである。その二は、教職員準備教育についてであるが、職業教育の教員養成にあたって、工業専門学校や大学工学部における科目に、實際教育の現場で必要な教育学・心理学関係の科目が等閑視されている。にも拘らず、教員の場合は、他の一般官庁と異なり、選考試験に合格しさえすれば、職務に関する指導は全然なされずに、そのまま採用されて教職に就いてしまふという状況に對してである。

この二つの欠陥は職業教育の教員については特に考えねばならない問題といえる。イタリーの関係教育専門家達も、この是正を企図して対策を講じていたが、その一つの結果として、職業教育の教員に対し国庫による奨学資金制度が一九四七年五月に法律で定められた。これは教員の志願者中より、若干名では

あるが、毎年奨学生を選抜する。奨学資金は科目により格付けされており、奨学生は将来必ず職業教育の教職に就く者とされている。希望者は筆記試験を受け、それに合格すると文部省の指定した科目について、所定の年間を研究するのに十分な金額が与えられる。その期限終了の際、研究報告書を提出して、上記の選考試験を受けなければならない。

この制度は特種な技術の専門学校、技術関係諸機関、科学研究所等で指導を受ける場合にも適用されるものである。

この制度は未だ研究中のものであるが、現在までのところよい結果を示しているようである。

三

教員養成学校として、技術職業教育専攻の師範学校がイタリーには二校ある。一校はピザの師範学校、もう一校はミラノの女子師範学校である。

ピザの師範学校は高等師範学校の附属として設置されたが、寄宿舎設備をもつ大学クラスの師範学校である。修得した知識学問を、教育実践面でいかに有効に生かすかを教育的に研究指導する特殊な学校で、学生はみな大学の農業、経済、商学、工学の学部籍を

置いて、何学期かを履修した者に限り、試験の上、入学を許可される。従つてここに入学した者は、大学で学問研究をするかたわら、ここでは自由に教育学関係の指導を受ける機会が与えられている。

しかし、この師範学校に入学したからといって、卒業後の職業教育関係の教職ポストは別に保証されず、他の教員志願者と同様に、選考試験を受けなければならぬが、この学生達は相当高い程度の指導訓練を受けておりそれにこらう師範学校を卒業したということと自身が、職業教育の教員としての資格、條件、能力において、他の教員志願者と比較した場合、選考試験には有利であることは言うまでもない。

この師範学校は、発足して未だ数年を経たばかりである。技術教育に関する施設・規模・組織からいっても、完備しているとは言えない。教員の養成指導の一般的諸問題にしてもまだ解決されない点を残している。

ミラノの女子師範学校は、イタリーで、非常に職業教育の機能を發揮している唯一の職業教育専攻の師範学校であると言われる。生徒に家事及び職業一般の指導を施す、職業技術訓練所と似た高等学校を併置し、家政及び

女子職業教育の教員養成を目的としている。学科目は、国語、歴史、地理、外国語一つ、教育学、自然科学、マーケティング（市場研究）、農芸、製図、美術史、家政、女子職業、衛生学、実習等にわたっている。

家政及び女子職業の教員免許状を取得するには、やはり選考試験を受けなければならぬ。なお師範学校はいずれも二年制の学校である。

四

職業教育関係の教員には、他の教育関係以上に、その知識面・教育面・技術面においてかなり高度なものを必要とするのであるが、このことは現職教員の教育にも言えることで、教職準備教育において、かなり充分な指導訓練を受けて教育されてきても、それに終止するならば、技術はたえず改良進歩して行き、技術の教育もまた変化して行くので社会の現実から脱落して行くことになる。それだから現職教員の再教育は、職業教育において是不可欠のことである。

だが、イタリーの場合も、現職教員は常に交通至便な都会的地域に集結しているわけではなく、様々な地域社会条件をもつ各地方各地域において、教育実践に従事しており、こ

のことが実は現職教員を孤立化させ、教員相互の意見交換及び啓蒙指導による教員の質的向上を困難にしている。

この事實は職業教育の場合、最も敏感に且直接的に障害となつて反応するだけに、警戒すべき最大の点であらう。職業教育にたずさわる現職教員は、自己の専門分野において科学的技術的な面の進歩向上を常にはかると共に、現実社会の状況変化にも注意を怠らず、教育の実践を行つて行かなければ、その職業教育は社会の現状からおきざりになつてしまふことになる。

イタリーでは、かゝる現職教員の教育の必要性を痛感して、一九五二年法律により、教育センターの設置がとりきめられた。これは純然たる現職教員の自治体公共施設機関で、現職教育の質的向上を目的として、教員相互の自覚と責任のもとに、講習会を開き、セミナーを組織し、研究旅行を実施するなど、教員の再教育を第一義的の目的としている。これは職業教育教員だけのものではなく、全教科教員により組織されているものである。

職業教育に限って見るならば、その活動の目覚ましいものは、各地の技術教育連盟の活動である。一九四六年以来、各地の現職教員に

より組織されているゼミナールでは、教育一般の問題、及び専門教育の問題について、終始研究討議を重ねており、教員相互の質的向上を目指している。

研究奨励金も、各地の技術教育連盟では、その予算に計上し、特別財源から支出して現職教員の教育のために啓蒙指導の面で、特に顯著であった教員に対し与えられている。国家においても、現職教員教育には協力的であり、職業教育に対しては、次の点で現在盡力している。

一つは、技術教育雑誌の刊行で、文部省では、最近「テクニカ・エ・デダチカ」という雑誌を復刊した。この雑誌が教員の質的向上を目指して、職業教育の教員を現在の水準にまで高め得たことに果たした役割には、相当重要なものがあるということである。

もう一つは、奨学資金で、一九四九年以来実施されており、非常な好結果をもたらしている。これは夏期休暇の約三カ月間、国内、海外と研究地のいかに問わず、明確な目的意図をもった課題について研究しようとする職業教育関係の現職教員に与えられるものである。

(国学院大学教育学研究室)
附記 本稿は国際労働機構(I.L.O.)の機

関紙「産業と労働」の第一〇巻第八号(一九五三年一月一日発行)に掲載されたイタリア技術教育管理委員会の提供資料によりまとめたものである。

研究会だより

▽文部省科学研究費の補助による「総合機械工業における基礎学力」の研究は、一カ年で漸く調査問題の作成にまで到達した。近くこれに基いて生徒にテストしていこうとしている。その成果が期待される。

▽かねて計画中であつた「中学校産業教育指定校全国連絡協議会」の準備会は、二月十七日、小田原二中の研究発表会の後箱根湯本で六校の校長と研究会側四名が参加して開かれた。共通の問題——財政的な面、基本的な方針、全中学校への産業教育の推進——などについて話しあい、今後各地でおしすすめて、連絡協議会にまで持つていこうと申し合された。そのあと、学校経営座談会が行われた。(これは四月号に掲載の予定である。)

▽二月は各地での研究会が多く、清原氏は群馬、大阪、広島、岐阜等へ出かけ、池田氏は兵庫、鳥取、島根に出かけて、共に小田

原二中に出席した。二十六日には杉山、池田両氏が仙台市東仙台中学校に向くことになつている。

▽そのため休みがちになつていた公開研究会を二十七日午後二時より開催、各地における産業教育の報告を中心に、問題点を掘り下げていく予定にしている。

▽三月末の家医科研究協議会については詳細次号発表するが、多くとも五十名以内を越したくない。大分希望者も多いが、会費納入の研究会々員を優先的に取扱いたいと思つている。

寄贈資料

産業教育への道 千葉市川市立第一中学校
産業教育の歩み 静岡県引佐郡三ヶ日中学校
産業教育の一環としての職業・家庭科の教育計画 浜松市立西部中学校
職業家庭科単元展開指導票 同 右
天龍川地域総合開発について 同 右
産業教育の実践(中間報告) 千葉県安房郡白浜中学校

本校の産業教育 島根県簸川郡光中学校
わが校の生産教育と職業・家庭科の運営 新潟県南蒲原郡大面中学校

苦言集

▽人物テストとなる

伏字にしようにも、こればかりはどうにもならない。全日本中学校長協会といえ、野口彰氏とわかるからである。その野口氏は、人も知る通り中学校長としてただ一人、中央教育審議会委員である。

ところが、大違文相の教員の政治性中立案に、最初反対ゼスチニアを見せたが、矢内原東大校長のようにキゼンたる態度でなく、結局、賛成の方に加わってしまったというので、ひどく中学校長連をフンガイさせている。教員を代表していたのぢやなかったのか。単なる野口個人でないはずだ——とそれは異口同音に、教員の自由束縛に加えんをしたことを非難している。ある人曰く

「野口さんはわるいこともしないが、良いこともしないタチです。だから会長であり、審議会委員にされたのでしょうか。」
「ゼンゼン意味ないね。つまり

中立性というわけか。」かくてこれは野口彰氏の人物テストとなつたわけであり、不可解な中立性を身をもつて示したことにもなつたとは、当の野口氏自身知るや知らずや……。

▽官僚を教育しよう

日本に官吏様ができたのは古い。映画の「唐人お吉」で見ると、お吉を外人におしつけた旧大名が、明治の御代には官員様になつていった。官僚と言葉はかわつても、封建性のシツポは今にとれていないのである。

下におれツ——と口でいわないうまでも、意識的に無意識的に上は大臣から、下は木ッ葉役人まで、民主々義というカンペンをかけてはいるが、体臭からは決してぬけ切つていない。その第一の現われは「指導意識」である。しかも今日では例外なく「保守的」である。

実際に子供を教えたこともなく、地域の現状も知らない官僚が實際家を指導しようというのである。地方に行つて大いに官僚風を吹かしたり、教師を指導したりする。——何が彼等をそ

うさせるか。

苦言はむしろうける方に向きたい。まさか土下座をしたり、手を合して拜まないまでも、官僚を迎える教員達の中に集かう「封建性」が「奉る態度」となつて反映するからである。文部省とか、厚生省とか、頭文字に役所の名がついていれば、小使でも何でもえらく見える「心理状態」が問題である。それだけでもポオツとなつて、まるで魔術にかかつたように有がたくなるらしいから不思議な心理状態である。長い間の「官僚圧殺」の亡霊がつきまといつていのかも知れない。その結果、官僚はいつかその臭気が身につつき、つい威ばり散らすことと相成るのではなかるうか。中には腹では吹き出しそうな気持や反感を抱きながらも、周囲がそうだからそれに合している人も多いであらう。

ことさらに官僚全部を目の敵にしるとはいわない。だが股襟でも神様でもないことは、大臣であろうと天皇であろうと同じである。近藤日出造じやないが

親愛感をもつて「やあこんにちわ」と迎えてよいのである。それを失礼と思つたり不気嫌だつたりする官僚がいたら、それは駄々子とでも思つて、知らぬ顔をしていればそれでよい。それで罪せられる法律もなく、別にベチ当りにもならない。かえて教育界が明朗になるクドクの方が多い。鈍感な官僚には、少し手きびしくやる位の気概と自信を實際家は持つべきである。まずは「官僚教育」をおすすめる。

▽施無畏の意味

東京浅草の観音堂（浅草寺）の門に「施無畏」の三文字のかかれた大きな額がかけられている。多くの人は意味もわからず通りぬけているかも知れないが、これはセムイと読む。日本語に訳すと「オンレナキヲホドコス」となる。「オンレオオイ」の反対である。畏れないことを施すこととは、仏教徒の最高の施しといわれている。何ものも畏れない境地、苦をも死をも、そして権力をも。浮世離れの言というなかれ。なかなか達し得ないとしても、味うべき言葉ではないか。日々これつとめたいものである。

既刊パンフレット在庫分

- ▽学習指導要領批判 (No. 8)
- ▽学習指導案実例 (No. 9)
- ▽適性概念の検討 (No. 10)
- ▽職業家庭科と職業分析 (No. 11)
- (昭和廿七年度夏期研究協議会号)
- ▽栽培の学習指導案 (No. 12)
- ▽平和と生産のための教育 (No. 13)
- ▽中央産業教育審議会建議案の解説 (略号—審議会案解説)
- 以上各冊二十円 (送料四冊まで八円)
- 題名明記、前金申込みのこと。

職業と教育 (最近号主要内容)

○昭和二十八年二月号

- 職業指導の問題点 (後藤豊治)
- 職業指導の実際運営 (古屋正賢)
- ポリテフニズムの動向 (長谷川 淳)
- 昭和二十七年冬期研究協議会の記

○同 三月号

- 職業科一カ年の歩み (池田種生)
- 産業教育と職業・家庭科 (座談会)
- 出席者 杉江 清・長谷川淳・石川勝藏
- 杉山一人・清原道寿・池田種生

内地留学生の回顧 (中岡修也)

○同 四月号

- 生活技術と生産技術 (長谷川淳)
- ボストン市におけるインダストリアルアーツ (編集部)
- 実習方法及び実習施設(大分市王子中学校)
- 国語科の産業教材 (矢野敏雄)

○同 八・九月号 (特集)

- わが校の職業・家庭科における教育内容の構成と教育計画 (新潟県大ぶけ中学校)
- 夏期研究協議会の成果 (編集部)

○同 十月号

- 中学校商業教育の問題 (角田一郎)
- 産業教育と各教科のあり方 (清原道寿)
- ある教師への手紙(1) (池田種生)
- 職業科教育計画の要点 (浦島初美)

○同 十一月号

- 職業・家庭科技術指導の段階(古屋正賢)
- 電気に関する学習指導法 (稲田 茂)
- ある教師への手紙(2) (池田種生)
- ニューヨーク市のインダストリアルアーツ

○同 十二月号 (家庭コース特集)

- 家庭コースの目標と性格(アンケート)
- 中原達子・石川カツ子・蛭田恰子・田中花子・阿部よし・広瀬しげ・藤山美枝

家庭コース討議の鍵(回答よせて)

シカゴ市のインダストリアル・アーツ

○昭和二十九年一月号 (協議会特集)

- 産業教育運動への発展 (池田種生)
- 産業教育全国協議会の概況
- 職業・家庭科の教育計画(試案)協議会資料
- アメリカにおける働く女性 (杉山一人)
- 問題を整理する(1) (鈴木寿雄)
- 各冊二十円 (送料三冊まで四円)
- 号名明記、前金申込みのこと。

おことわり—本号は編集上の手ちがいから二〇ページとなりました。あしからず御諒承下さい。

入会をすすめる—会費一カ年二四〇円納入して会員になつて下さ。会誌毎号送付します。

昭和29年1月31日印刷 (定価一部三円)
昭和29年2月5日発行 (年額二百五十円)

編集兼 池田種生
発行者

東京都中央区銀座東五ノ五

発行所 職業教育研究会

電話銀座0〇八二番
振替東京七七一七六番

中学校 産業教育の実践 附細案

文部省産業教育指定校

小田原市立第二中学校編著

一読をすゝめる

長谷川 淳

すぐれた教育的識見と、それを基礎にした正しい職業・家庭科の実践がどのようなものであるかは、この小田原二中の研究集録が最もよく示している。

これはもはや、現行学習指導要領への盲従でもなく教師の興味をみたすためのプラン・メイキングでもない。職業・家庭科がとかくおちいりがちな「仕事中心」主義や「実生活や地域社会への順応」を克服し、将来の日本をめざしたたくましい生産人の育成の実践記録である。職業・家庭科の正しい方向を目ざす人々に一読をすゝめる。

(A5判・三八〇頁・上製美装)
定価 三八〇円・〒四八円

日本図書館協会選定・職業教育研究会推薦

清原道壽 著 A5判 二七〇頁
三〇〇円・〒四〇円

教育原理

産業教育の理解のために

これからの日本の教育は、科学的生産人近代的産業人を具体的な人間像としてとりあげる。そのような人間像をめざして教育をおこなっていくことによつて、日本民族の根本的課題である、平和と独立の目標を達成することができ。永年にわたつて産業教育ととりくみ研さんを尽した著者が、従来の日本教育に鋭く対決した意図は、まさにこの点にあつた。あえて本書を産業教育の理解のために贈る。

後藤豊治 著 A5判 二八〇頁
三〇〇円・〒四〇円

職業指導新論

現在、戦後の新教育全般は、日本という社会の現実の基盤にたつて批判・検討が加えられ、その正しい方向を見出だそうとしている。戦後の職業指導理論が、外国からの直輸入をそのまま模倣する時代から転換し、脱皮する所以もまたここにあつた。本書はその意味から、広く読者の批判を待っている。新制度にもとづく**職業指導**専事必見の書！

東京都中央区
銀座東五ノ五

立川図書株式会社

振替番号
東京 83314